

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 2 回 松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会
2. 開 催 日 時	令和 8 年 6 月 9 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
3. 開 催 場 所	松阪市福社会館 3 階 大会議室
4. 出席者氏名	(委 員)◎ 志田 幸雄、○ 岩瀬 晃子、奥田 隆利、 長友 薫輝、渡邊 幸香、大田 哲、瀬古 ルミ、 中野 美枝子、小山 誠、堀 康太郎、谷 香代子、 神内 順子、青木 浩乃、三宅 明、田中 弥栄子、 宇佐美 公子、西 直哉 (事務局) 大西健康福祉部長、池田保険健康担当理事 健康福祉総務課:久世課長、世古担当監、徳田課長補佐、 下岡主幹、梶間主幹、北川主幹兼係長、 辻原係長 介護保険課 :大川課長、瀬古主幹、谷口主幹、刀根主幹、 上村係長 日本開発研究所三重:庄司代表取締役所長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍聴者数	0 人
7. 担 当	松阪市健康福祉部介護保険課 電 話 0598-53-4058 FAX 0598-26-4035 e-mail kaigo.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1)基本指針について
- (2)各種アンケート調査の結果報告と分析について

議事録

別紙

第 2 回 松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会 議事録

日時:令和 8 年 6 月 9 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場所:松阪市福社会館 3 階 大会議室

委員

(参加委員) 志田 幸雄、岩瀬 晃子、奥田 隆利、長友 薫輝、渡邊 幸香、大田 哲、
瀬古 ルミ、中野 美枝子、小山 誠、堀 康太郎、谷 香代子、神内 順子、
青木 浩乃、三宅 明、田中 弥栄子、宇佐美 公子、西 直哉

(欠席委員)大門 公子

事務局

大西健康福祉部長、池田保険健康担当理事

健康福祉総務課:久世課長、世古担当監、徳田課長補佐、下岡主幹、梶間主幹、
北川主幹兼係長、辻原係長

介護保険課 :大川課長、瀬古主幹、谷口主幹、刀根主幹、上村係長

日本開発研究所三重:庄司代表取締役所長

1. 開会・本日の議題・資料確認

委員総数 18 名中 17 名が出席し、定足数を満たしていることが事務局より報告があった。

2. 第 10 期介護保険事業計画 基本指針に関する事務局説明

- 介護保険制度の基本指針や、第 10 期計画作成に向けたスケジュールについて説明。
- 夏頃に向けて各種アンケート結果を分析し、年末にパブリックコメントを実施。年明けに策定案と答申案を作成し、2 月に市長へ答申予定。
- 2040 年を見据えた中長期の計画策定が重要であり、地域包括ケアシステムの深化、人材確保、生産性向上などの施策を盛り込む方針。

【質疑応答】

委員:人材確保や質・量の変化など、対応が求められる大きな変更の局面であると感じる。委員会でも精査しながら良い議論にしていきたい。

3. 各種アンケート調査の結果報告と分析

事務局より、5 つのアンケート(日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、介護支援専門員調査、居所変更実態調査、介護人材実態調査)の結果が報告された。

【質疑応答】

委員: アンケートでも学校からの紹介が激減しているとあったが、現場でも若い方の採用減を実感している。今働いている人が継続して働ける環境づくりが非常に重要である。

委員: 生きがいと幸福度に強い相関があると感じた。生きがいについての「具体的な内容」が分かれば教えてほしい。

事務局: 現在集計中であるが、ざっと見たところ「家族」についての回答が多い印象である。

委員: アンケートと一緒に回答した。最高齢は 88 歳だが、健康でいたいという意向が強い。何かあった場合、包括か社協か福祉まるごとか、どこに相談したらいいのか、という質問があった。また、健康でありたいという思いに沿って、自身で福祉用具などを試せるような「福祉フェア」を実施する。私たちができることを頑張っている生がいににつなげていければと感じた。

委員: 健康な状態と認知症の間である状態の「MCI(軽度認知障害)」について詳しく教えてほしい。

委員: 認知症は進行を抑えることはできるが、改善させることは難しい。MCI は軽度の認知障害で、完全に認知症ではなく、リハビリや運動療法などのやり方によっては改善・回復する可能性がある段階のことである。

委員: 地域の実情に応じた計画とするため、アンケート結果を地域別に分析することはできないか。

事務局: 今後、地域包括支援センターのエリアごとなどで分析を進める予定である。

委員: 男性や家から出られない人に対し、本音を聞き出す方法を考えたい。

委員: 昼間の教室への参加が減っているが、地域包括センターが男性の参加者を増やすように工夫をしながら努力はしているが上手くいっていない部分が多い。高齢者の就業率上昇の影響もある。75 歳の年齢の方への訪問を毎年行っているが、昼間いない人が多い。それぞれの家庭で完結するような暮らし方を続けてきたので、地域のつながりは減っていると思う。介護予防サポーターとして介護予防の取り組みをしっかりと継続してやっていただいている方々がいらっしゃる。今後は地域包括支援センターと連携し、介護予防サポーターの活用を考えていただきたい。

委員: 介護予防サポーターとしての自身の活動では、男性の参加や夫婦での参加もある。内容を少しずつ変えながら面白おかしく続けられるよう工夫している。

委員: 特養や老健は必要数満たされているが、サ高住や有料老人ホームなどは増えており、囲い込み問題が懸念されている。高齢者人口自体も減り、利用者もいないで、職員もどんどん違う業種へいってしまう。

委員: 施設需給について、松阪地区の高齢者人口は 2035 年頃にピークを迎え、その後は減少する。一方で介護の担い手となる生産年齢人口は減り続けているため、今以上に施設を作りすぎると将来的に共倒れになる恐れがあり、人口動態に合わせた政策をとっている。

委員: 独居高齢者や高齢者のみの世帯が増えていて、身元保証サービスや、ヘルパーやショートサービスの不足しているということが現場ででていて、アンケートでも反映されている。厚労省の介護保険最新情報の No.1508 で、介護支援専門員の同行訪問の経費負担について載っている。シャドーワークのことであつたり、非常に複合的なニーズのあるお宅での介護支援専門員の一人での訪問は危険が伴うことがあり、私自身も怖い思いをした経験がある。国からケアマネの同行訪問に対する経費支援(地域医療介護

総合確保基金など)の通知が出たが、市として実施する考えはあるか。

事務局：国の通知は把握している。市で実施していくかについては、県とも確認しながら今後検討していきたい。

委員：アンケートの抽出方法について。高齢による衰弱が原因との回答が明らかに増えているが、たまたま高齢の回答者(80代など)が多く抽出されたということはないか。また、転倒が明らかに減少しているが、例えば、転倒予防の教室をした成果が出ているのかどうか教えてほしい。

事務局：65歳以上の要介護認定を受けていない方を無作為に3000人抽出している。エリア別には分けているが、年代別の抽出(回収)割合については確認し、次回の宿題とさせていただきたい。

委員：訪問介護事業所の運営が厳しくなっている。特に中山間地域での事業が厳しくなっており、サービス需要に対応できる仕組みを、基本指針の中に盛り込んでほしい。

委員：アンケートの「その他」の項目について、割合が高いものがあるので、具体的な内容を分析して教えてもらえると今後の参考になる。

5. 閉会・次回案内

第3回委員会は2026年8月7日(金)に開催予定。当日は松阪市の高齢者の現状(人口動向、介護給付状況等)や第9期計画の進捗を報告し、課題整理を進める。